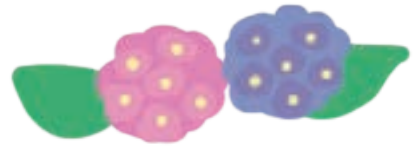


紫竹山コミ協 会報

むらさき



第7号

発行日 平成29年1月1日
発行 紫竹山校区
コミュニティ協議会

副会長あいさつ

東日本大震災の現況を視察して

紫竹山校区コミュニティ協議会

副会長 阿部 篤義

視察旅行団長



この度紫竹山コミ協視察団一行は石巻市をメインに被災地を訪問し、その災害の規模の大きさに驚愕した次第です。

石巻学びのガイドが我々のバスに同乗し、一時間余にわたり被災地を案内してくれました。今世紀最大といわれる大津波の被害に關しては、言語を絶する程の規模で、想像をはるかに越えたことを話してくれました。しかし五年半を経過した現状では、徐々に復興しつつあるも、市民の生活はまだ安心出来るものではありません。国・県・市が一丸となって一日も早く安心・安全な生活が出来るよう努力して欲しいものです。

我々紫竹山コミ協傘下の12自治会も早急に自主防災組織を立ち上げ、災害時には住民の協力的体制のもと、自主的な防災活動を行える様に、又被害の防止および軽減を図ることが、必要な事と思えます。

地震・水害・風雪・火災などの災害は、いつやってくるかわかりません。被害の防止及び軽減を図ることを目的とし、早急に各自治会が自主防災組織を立ち上げるよう希望します。

7/8米山第四防火協会優良表彰

米山4丁目防火協会（米山第四自治会）は、火災予防運動に努力されたことで表彰を受けました。



中央区区長懇談会

8月4日駅南コミセンに、石塚中央区長様、長浜課長様（中央区地域課）、宮島主幹様（総務課安心安全係）、真島主査様（地域課）の4名をお迎えし、区長懇談会が開催されました。

石塚区長のお話

中央区役所の移転に関する報告
中央区役所は、市役所本館1・2階分館、白山浦庁舎に分かれて使用している。白山浦庁舎、分館等の老朽化に伴い、また新しい耐震基準に対応していません。古町地区の中心市街地は、大和デパート、ラフォーレ原宿（NEXT 21）の撤退、北光社が閉まり、厳しい状態が続いています。

そうしたことを受けまして、中央区役所を含め、行政機能の課題もあり、古町地区再開発ビルを想定して、いろいろ検討を進めてまいりましたが、再開発ビルに関しては1、2階は既に利用が

決まっております、行政機能が入るとしても3階から上になりそうだ。窓口を3階から上にするということはどうしたものか。これが課題となりました。そうした中で、NEXT 21（ラフォーレ原宿が撤退後）の新しい所有者からは是非行政機能をどうかという話もあり、大和再開発ビルやNEXT 21も想定しながら、行政機能の移転を考えようということになりました。

中心市街地活性化の為に、大和跡地の再開発ビル、NEXT 21、西堀ロイヤルと幅広い対応策を考える必要があります。もちろん行政機能が行ったからと言って、全てが解決する訳ではありません。やはり商店街の皆様のご努力も欠かせません。そうしたことを総合的に考え併せて、行政機能移転に關しては、中央区役所は、NEXT 21の低層階に、他の白山浦庁舎機能は、再開発ビルへの判断に至りました。7月の初め、市議会にお諮りしました。

今後は全庁管理担当部署が中心になってNEXT 21ビルへの入居について、具体的な検討に入っていくところです。中央区役所としては、移転により、よりよいサービス提供できるように、また市街地にぎわいの創出の一助となるように検討しているところです。また、検討の内容が固まったところで、議会にお諮りして行きます。お金もかかることですから、予算を組みながら進めて行く事になります。自治協、コミ協の皆様にも、情報の共有を図ってまいりますので、何とぞご理解、ご協力をよろしく願います。

続きは2頁に



区長懇談会(続き)

各参加者の質問・提案



テーマ	現状と問題点・要望・提案	中央区の回答
事前質問	1 米山第4自治会 自治会内に、ニワトリを飼育している家があり、環境上非常に迷惑している。行政に対して再三善処してくれるよう、関係部署にお願いして2年近くなるが、一向に解決できない。悪臭や蠅の多発、カラスや雀の糞害などに地域住民は困っている。	関連部署が集まって対策を話し合ったが、本人が聞く耳を持たない。また、法律違反をしている訳ではないので、打つ手がない。はみ出した木を切ることも、薬剤散布にも本人の了承を得ないとできない。市民生活課も対応ができない状態です。引き続き、時間を掛けて説得するような対応しかない。警察、市、自治会3者で話し合うことも必要。
	2 米山第6自治会 笹出線街路灯設置不許可について、次の事柄を教えてください。 不許可理由は、当該道路の交通量(車輛)が基準に達していないとの事であるが、①基準数値、②調査結果、③設置に向けた方策、④自治会、コミ協としてどのような事を行えばよいか。	(社)日本道路照明が全国的に基準を出している。新潟市もこの基準に従って、優先順位で設置している。①車の交通量 25,000台/日、②平成27年度調査 16,450台/日、③/④新潟駅の高架工事により笹出線の交通量も増える期待もあり、その推移を見守っていきたい。 交差点照明は、優先順位で順次設置している。防犯灯については、自治会の設置要望により、地域課で助成しているの、相談してほしい。当面、これにより設置していくしかないと考えている。
	3 鐘西第1自治会 防災組織立ち上げに向けて、緊急の避難場所が問題となっている。 ①最近大雨により洪水注意報が多く発令されているが、その都度心配になる。信濃川、特に阿賀野川の堤防が決壊した場合、駅南地区はどのようになるのか教えて欲しい。場合によっては大多数の会員が指定された避難場所へ行く事になると思うが収容人数は大丈夫なのだろうか。 ②大地震による津波襲来等で緊急避難が必要になった場合、避難場所(紫竹山小学校)まで10~20分かかる。近くに高い建物が無い。県の施設(テクノスクール)は近くにあるが、この施設が緊急の一時避難場所として使えるように県に働きかけてほしい。	①津波、水害(内水・外水氾濫)に関するハザードマップは、現時点のものをお渡しする。⇒各自治会長様へは、コピーしたものをファイリングして配布しました。(9月中旬) 全ての住民が避難する訳ではないと思うので、自宅で生活する方々は、日頃から備蓄も考えなければならない。 ②テクノスクール、県立高校も含め、今後とも話し合っていく。 自主防災組織の初期組織化助成は、組織率もかなり上がったので、来年度無くなる可能性もある。今年度が設置のチャンスかもしれない。今後は、防災訓練や資機材助成にシフトしていく。
	4 駅南ハイツ自治会(米山3丁目) 当マンションでは、災害時要援護者を始め、高齢者の独り住まい世帯が増えてきている。マンションは戸建てと違い密室であるため、部屋の中からブザーや笛くらの音では外に聞こえない。体の具合が悪くなる等電話もできない非常事態時に、周りの居住者に伝える伝達道具・機器のレンタルの助成を市として可能か。	ブザーや笛を配布する補助は、要援護者等に配ることにより顔つなぎになるとの方針で行っている。しかし、マンションは難しい。 日頃から顔の見える関係作り、見守り活動等が大事と思われる。 また、「高齢者安心連絡システム」(本体、無線携帯端末、安否センサーのセットで委託事業として実施中)と言う制度があり、利用可能な条件はあるが、今回のようなケースでも利用できるかもしれない。担当部署：健康福祉課高齢介護係
その他	①北越高校付近歩道の傾斜は正、米山4丁目付近歩道の整備について ②むらさき通りの防犯灯が樹木の繁茂により暗くなるので、伐採や防犯灯の再設置について	①、②ともに個別案件については、個別に担当部署に連絡するので、相談してほしい。

※何れの問題も、今後とも質問や要望を挙げて行くことが、地域の皆様の思いが強いという証明になります。

紙面スペースにより、「現状と問題点・要望・提案」と「中央区の回答」に要約しております。

微かな差異が生じているかもしれません。お許しください。

尚、詳細について、ご興味のある方は、編集委員・中村(駅南コミセンまちづくりセンター:常駐ではありません)にお問い合わせください。



9/27~28 コミ協・石巻 防災研修視察旅行 紫竹山自治会長 野澤 正信

去る9月26、27日紫竹山コミュニティ協議会を構成する自治会役員、防災担当者等による視察研修が行われました。16名の参加があり、今後当地域の防災組織立ち上げに参考にしようと東日本大震災で壊滅的な被害にあった宮城県石巻市へ復興状況の視察と、現地での話を聞く為に被災地へ赴きました。

私は、震災の一年前に三陸を旅し、海岸線を覆う美しい松並木、過去の津波災害を教訓に作られた防潮堤等を見ているので、まさか津波がこの防潮堤を乗り越えて甚大な被害を与えろとは思像もなかった。当時テレビで見ると津波が家屋や車を押し流す光景は、CG映画の一場面のように津波被害の恐ろしさを実感したものです。

研修先では、石巻で津波被害に遭われたボランティアスタッフがバスに乗り込み、当時の住宅地跡を回り、被災状況を説明して頂きました。説明がなければただの原野同然でしたが、高台に面した場所には、完成間近の大規模な震災復興マンションが3、4棟建築中で、堤防の内側は一般の住宅は建てられないとの事で、今後大規模なメモリアル公園としての造成が行われるとの説明を受けました。

震災時、避難する車で道路が大渋滞をきたし、歩いて避難する人が大渋滞の車から降りて早く逃げなさい」と呼びかけたのですが、誰一人として車を捨てて逃げなかったそうです。その結果車ごと流されて多くの人命が失われた事で、災害時の人の心理状態を表した興味深い説明に、何よりも第一に自分の命を守る

行動がいかに大事かを知らされ、防災組織を立ち上げるのに参考になりました。災害は忘れた頃にやってくるという言葉ですが、昨今の熊本地震、日本列島に上陸したいくつもの台風被害等々、自然災害は地域防災を考える上で、いかにして安心安全な地域を作り上げるかを問う重要なテーマです。

今回の研修に参加し、コミュニティ協議会を構成する各自治会の担当者と率直な意見交換と交流が出来たことは、同じ悩みを持つ自治会としても有意義な研修ではなかったかと思っています。

自分の身は自分で守る、を前提に自助、共助、公助を如何に防災意識として地域住民に根付かせるか日頃の啓蒙活動に努め、身近なところから地域防災を組織として立ち上げていきたいと思います。



石巻学びのガイド

米山第四自治会

濱田 宏幸

津波に遭った石巻の現場は、元は住宅地という事だったが今はすっかり広い原っぱになっていてその面影は全くなかった。

「この高さの津波に襲われたら…」その場を襲った津波(約7m)を示すパネルを見上げて、絶望的な高さにそう思った。人は疎か家屋をもすっきり洗い流す津波の猛威を身近に感じ、恐怖のあまり手に汗が滲んだ。その瞬間ここに居られた方はひとたまりも無かっただろうし、生き残るための術もはや無かっただろう。彼らは最後にとんだ思いだったか、考えるほど心が痛む。

ガイドの方が「高い防潮堤が出来ればそれは確かに守りにはなるが、同時に津波を平地から視認出来なくなるので逃げ遅れの可能性が高くなる」と言っておられた。

自然の圧倒的な力の前には人間は肉体的に無防備であり、だからこそ生き延びるために過去の教訓を基に人間は知恵を絞ってきたのだが、防潮堤すらオールマイティな備えとは言えないという話に防災減災の難しさを改めて知らされた。

まず何より基本に立ち返り、「自分の命は自分で守る」意識を一人ひとりがいかなる時にも持つことが初めの一歩、との思いを今回の研修で新たにしました。

犠牲になられた方々のご冥福を改めて心よりお祈りする次第である。

米山第四自治会

青山 齊



津波の被害者慰霊の場

紫竹山校区コミュニティ協議会主催の「震災復興の石巻」への研修視察に参加させて頂いていただきました。私は、1964年の新潟地震を大学生の時体験しました。今回、石巻市の被災地を訪れ、ガイドさんの説明を聞き、災害発生時のいろいろな出来事を勉強させて頂きました。

災害発生時には、一瞬の判断が命にかかわる重要な要素であることを教えていただきました。避難方法の選択では、自動車を使用して避難するか？徒歩で避難するか？などの判断が命を左右することを知りました。石巻では、自動車による避難があまりにも多かつたために、大渋滞を引き起こし動きが取れなくなつたところに、津波が押し寄せ多くの命が奪わ

れたそうです。

避難場所の選択では、屋上に逃げるか？小高い丘に逃げるか？の判断で、門脇小学校は、後者の「小高い丘に生徒を誘導する」を選んだおかげで、生徒は全員無事だったそうです。

また、日本製紙石巻工場(24時間フル操業)では、「全員避難せよ!!」という社命を発令し操業を停止して、全員を自社の宿舍等のある丘に避難させた。そのおかげで全員が無事だったそうです。(たまたま非番で、休みだった社員の中で、自宅が津波に襲われ犠牲になった人がいたそうです)

災害発生から五年が経過した石巻市は、壊れた家やめっちゃくちゃになった道路は目にする事はなく、復興が進んでいることが印象に残りました。しかし、目に見えないところ(自宅に戻れない人、公営住宅に入居できない人、以前の仕事に戻れない人など)の復興はまだまだである事を知らされました。



日本製紙石巻工場

米山第五自治会長

田中 駒治

小雨の中、石巻市への研修視察旅行は、現地ボランティアの方と約1時間半程、震災跡地を見学して、供養塔にお参りをさせて頂きました。当時の生々しい様子を聞いた見たりして、私達が考えられない様な恐ろしさを感じました。塔の前のポールは、約7mの津波到達の水位の印が刻まれました。大人の身長約4倍の津波が押し寄せたとの事。

それが現在では日本でも有数な巨大で立

派な建物(魚市場)、また、火の見櫓の様な高い避難塔が数箇所あり、最上階には非常食や寝具等が置かれていたとの事。

まだ5年半しか経っていないのに、この復興の速さには驚きました。石巻市街の爪跡は、ほとんど見られずびつくりでした。

日頃からの災害への備えと、自分の身は自分で守るということが一番大切なことと痛感しました。



石巻供養塔

米山第五自治会

安倍 哲

当時のテレビ放送を見る限り、6.9mの津波がどのくらいなのか実感がありませんでしたが、一瞬の判断が生死の分かれ目と感じました。私も新潟地震の時津波も体験しましたが、それ以上でした。

ボランテアの人の話では、海と道路が並行にあり、その道路を車で走行中に津波に遭遇されたとのこと、渋滞で動かないので車を置いて逃げたそうです。

道路も良くなり防潮堤も作っていました。が、これで大丈夫なのか、年数がたてばこれだけの津波が来たことを忘れてしまふのでは。命を守るには高台に行ける広くてまっすぐな道路が何本も有ればと感じました。



津波到達の高さモニュメント(6.9m)

米山第六自治会

吉田 正和

東北大地震から5年半を経過し被災地の現状を視察でき、大変参考になりました。

た。この視察旅行を計画実行された紫竹山校区コミュニティ協議会会長はじめ役員の方々に感謝申し上げます。

私は東北大地震後の5カ月目の8月に仙台、松島、石巻を見て回りました。その時は小学生の多くが犠牲になった大川小学校にも行きました。直ぐ近くに山があるのに何故山に逃げなかったのか等の疑問を持って帰ってきた記憶があります。

今回の視察旅行で、石巻の特に津波の被害の大きかった地区を見学しました。津波の恐ろしさを実感しました。家も会社も津波に流され、町が無くなっていました。みんなが再建に頑張っているが、復興するにはまだまだ時間がかかると感じました。

新潟市も昭和39年の大地震から50年が経過し、当時の恐怖を忘れつつあります。また、半分以上の人が新潟地震後に生まれた人です。普段から避難訓練などを実施して、何処にどうやって避難したらよいかの訓練を行うことが大切だと思います。

子供、老人等の援助を必要とする人の避難をどう支援するかも大切です。知識を得て普段から訓練すれば、地震と津波の人的な被害をかなり減らすことができます。



整備中の防波堤

米山第六自治会

北村 和也

あのいまわしい、東日本大地震から5年余り。以前から被災した地域に行つて、この目で確かめたいと思つていました。今回紫竹山コミュニティ協議会の企画に

参加して視察することができました。東日本大地震の新聞報道は、これまでもたくさん見たり聞いたりしています。津波に関して言うと、新潟の地形特に駅南地区から考えると、もうひとつもふたつもピンと来るものが無かったというのが正直なところでした。

しかし今回の研修で、石巻の中心街から海岸方面へ向けての視察で、いろんな事を考えさせられました。特に停電になった場合、情報を得る手段が少なくなつてしまふ、従来予定している演習などは、きっと予定通りうまくいかないだろうと肝に銘じておくべきではないかと。石巻市の街の中心部の混乱ぶりが総て物語っているようでした。

またガイドの方の実体験が一番震災の怖さを痛感した次第。もう少し聞きたかったかな。

企画をした皆様に感謝をして、ありがとうございます。次回行くとしたら、即当日仙台、松島まで行きたいですね。



復興住宅(左)と廃校となった小学校(右)

米山第六自治会

児島 優

1. 震災復興の石巻と松島海岸の現状比較
 2. 新潟市の災害防備の現状と、震災復興地のインフラ整備の現状とその方法の比較
 3. 本視察旅行についての、私的な考察と所見
- 上記について、確認成果・感想を述べさせていただきます。

1. 被災地について、まず最初に感じたことは、よくこの短期間でこれだけのインフラが整備されたという事実に対し、その法的な手法、手続法(行政法)がどのように機能したかという事です。

漁港付近(被害が最も甚大であった地域)については、土地境界等が100%近く亡失しているにも関わらず、商業施設が設置され機能している事実です。

市役所等の行政設備が津波に破壊され、戸籍・財務諸表その他個人に対する身分証明等(個人情報)が消失しているにも関わらず恒久的な設備が建設中であり、このような既成事実について、民間金融機関・国家的支援機構がどのように援助し個人的債務を整理したか興味をそそられます。

復興予算措置については、神戸の震災を教訓として聞いていますが、国家的支援機構(財政面)と民間金融機関との協力が、今後の課題となつてくると思われまふ。理由としては、日銀の緩和策(マイナス金利)が大きく関与していると感じているからです。地元の金融機関の営業を圧迫する政策は、なるべく回避すべきではないかと思われまふ。

2. 8月4日の中央区長との懇談会において、様々な質疑について新潟市関係職員を含め協議いたしました。ハザードマップの作成等防災措置については、これから始まるのだという認識を私たちは持ちました。当然、私共も学習し、各区域住民との認識の共有・融和を持って防災設備等の設置を進めていこうと深く感じています。

上記1.において、ある程度述べましたが、当該行政機関(新潟市)の都市計画整備と連動した防災計画が私は理想と思つています。さらに申し上げれば、専門の処理機関(基幹事務)の設置が、不可欠ではないかと思つてます。石巻との、

現状比較を考察すれば、私共はもう少し危機感を持つても良いのではないのでしょうか？

3. 本視察旅行については、各区の防災認識の共有を目的として企画されたものと思っております。重要文化財・各地区インフラ整備の視察は、私にとつて勉強となりました。懇親会においては、今まで全くお付き合いが無かった方々と情報交換ができた事も、良い刺激となりました。今後、私自身健全な自覚をもってお付き合い願いたいと思っております。

鑑西第一自治会長

長谷川 潔

○多くの津波避難ビルが設定されており、その他に津波避難タワーが何カ所か建設されていた。私達の駅南地区には高台も高いビルも近くに無い。津波が来た場合どこへ逃げたらよいのだろう。駅南にもこの様な避難タワーが建設されていたら住民の安心度も高まるのではないか。

○避難所での食事の様子を、ボランティアアガイドから説明を受けながら、防災グッズを備えて置く事の大切さを強く感じた。少なくとも3日分の水・食料は、各人が準備しておく必要があるとの事。被災地では、その後全国のボランティアが、各避難所へ集まり炊き出し等を行ってくれたとのことである。

○津波避難タワーは鉄骨組みで常に解錠されているが、津波避難ビルに指定されている公共或いは企業の建物は常に施錠さ



倉庫に付けられた津波避難階段

れている。しかし震度5以上の地震が発生した場合には自動的にドアが開くとの事。新潟の避難場所に指定されている場所にも、この様なドアがあってもよいのではないか。

防災防犯部会長(米山3丁目マンション)

中村 昌雄

これまで被災地に行くのは、会津や郡山までで、今回津波被害が大きくあった石巻に行くことができました。復興状況を直接目にする事、地域のガイドさんからの話を聞くことができ、大変有意義なものでした。また、紫竹山コミ協の防災を直接的に担う方々と一緒に来たことも大きいと思っております。

当コミ協の防災に関する意識は、中央区コミ協の中では、遅れている一つと言えます。これを機会に地域を考えることが芽生えていただければ幸いです。

石巻の駅前・観光物産情報センターでお土産を買い、多少なりとも復興に協力することができたと思っております。やはり東北の被災地を忘れないと言うことは、必ずしも訪問する事だけではないと思います。最近、買って来た土産の一部ですが、ネットで追加注文して購入しました。いろいろな形の復興支援があると思えます。

最後に、私としては、大川小学校跡地と雄勝の硯を見に行きたかった。これは、来春に自分で行くしかないなど思っています。その計画を夢見て、地域で積極的に活動してゆきたいと思っております。



津波被害者慰霊の場

10/30

防災訓練

部会長 中村 昌雄



10月30日(日)紫竹山小学校にて、紫竹山校区コミュニティ協議会主催の防災訓練を実施しました。

朝から晴れて、放射冷却で少し寒い状態でした。参加者は、役員を含め、73名でした。想定人数より、少ない状態でした。

各家庭より避難所である紫竹山小学校に避難していただき、移動時間を計測して、アンケートに回答していただきました。受付後に、石口会長のあいさつ及び中央消防署駅南派出所大島さん以下4名の職員の自己紹介、本日の訓練内容の説明を行いました。消火器操作、通報訓練、「地震火災から命を守る」DVD短縮バージョンを視聴し、消防署からの説明を加えていただきました。その後、私より自助(自分の命は自分で守る)に関する説明を行いました。その後、本日の評価をアンケートに答えていただき、抽選で24名に防災関連用品(アルミジャケット1個、アルファール米1食分)をプレゼントしました。

アンケートより体育館が寒かったとのこと指摘をいただきました。また、椅子が欲しかったとのこと意見もいただきました。

た。大変申し訳ありません。しかし、防災訓練は、実施に被災時に避難場所である紫竹山小学校での避難生活を想定体験するものです。したがって、寒さや床の固さも経験していただき、それぞれ各人で自分の為の準備をしていただく、シミュレーション(疑似体験)も含まれています。災害は、天候がよい時ばかりではありません。災害は、寒い時(真冬)、暑い時(真夏)、暗い時(夜中)、明るい時(日中)さまざまに災害は発生します。寒さ、暑さの感覚は、人により異なります。それぞれに自分の為、家族の為に、何が必要かを想定し、準備をしておかなければなりません。そんなことを前もって考える、準備することが、防災です。行政がやってくれるわけはありません。いろいろな情報が氾濫している現代、自分に何が必要かを判断し、備えることが必要です。



10/30 健康教室 健康福祉部会

部会長 丸山 保

今年の健康福祉部会は、平成28年10月30日(日) 駅南コモンズ大ホールにて、地域在住の方々への健康増進、健康寿命をのばす目的にて、長瀬圭子さんを講師に招いて「いきいき健康体操」を開催いたしました。

日頃から体を動かしておくこと、少しずつ筋肉が柔らかくなり、体が軽くなり動きやすくなるということです。また、自分の普段の可動域より少しだけ、筋肉&筋を伸ばすことにより無理なく体が柔らかくなるということです。コツは、無理なくゆっくり、痛いという手前で止める事。

これから冬本番を迎え、外出回数が減り、家に閉じこもりがちになりますが、少しでも体を動かしましょう。

災害時では、自助・共助・公助が基本ですが、最も大事な「自助力」を高めておきましょう。

健康福祉部会では、今後も地域福祉の為、体の健康は、元より、心の健康に関する事などを開催いたします。



よい子の防災訓練

「何分で避難所に行けるかな？」

米山第六自治会 防災会会長

岡 徳太郎

どうしたら防災訓練に参加してもらえるか。この命題に、小学生・幼児を対象とした親子防災避難訓練を行う事に。

各地区より「のぼり旗」を先頭に会場へ。所要時間を確認、配布のゲーム券に記入。

防災士講話に続き、親子消火放水訓練。見事目標命中。みんな名人だ!!

最後に景品がもらえる輪投げゲーム。目の前だがこれがなかなか入らない。

この日一日は「親子ふれあい防災訓練」で楽しく終了した。



地域あれこれ

昔の思い出と地域の変遷②

紫竹山自治会会長 野澤 正信

(会報「むらさき」6号より続く)

昭和50年代になると、地域の青年達も結婚し、子供たちが成長してくると、青年部が出来、自分たちが味わった祭りの雰囲気と楽しさを子供たちに感じてもらいたくなり、手造り祭りの先駆けとなりました。

宵宮の朝から農業用ビニールハウスのパイプにブルーシートを掛ける作業をし、夜店の準備に忙しく作業したのが始まりです。また子供会のお母さん方も子供達と一緒に灯籠作りを手伝ったり、神輿の準備やゲームの準備に奮闘してもらいました。お神輿も交通量も少なかったので村道を練り歩くと沿道でお茶やお菓子でねぎらってくれる光景もみられました。

お父さん方も現在は青年部とは言えない年齢になりましたが、一生懸命祭りを盛り上げてもらっています。焼きそば、かき氷、わなげ、ゲーム等子供たちに喜んでもらえ、地域が一緒になって祭りを盛り上げることで人が集まり、楽しさを満喫してもらっております。祭りの席で、近所のお母さんがあのころお神輿を担ぎ毎年祭りに参加していた子供たちが、今は就職したりしますが、今では就職したりして、心片隅で

祭りの郷愁を感じてもらい、彼らが大人になって自分たちの子供に話してもらい、地域を愛する気持ちを持って頂ければ幸いです。これからも手作り祭りで地域が活性化することを願っています。



現在の中央消防署駅南出張所付近 (写真提供 松尾 準氏)

編集後記

11月22日朝6時頃に福島県沖を震源とする地震がありました。津波が福島、宮城までの警戒警報が出された。被災地の皆様のご無事をお祈りするばかりです。

会員に紹介したい記事がありましたら、編集部へお寄せください。

編集委員 中村昌雄、清治のり子、

阿部敏明、濱田宏幸、

中野正一、三国あつみの

6名です。

(10月1日時点)